

いじめは、いけない。
自殺は、いけない。
やめる勇気も、
持たなきゃいけない。



「知への初々しい憧れと畏敬の念」

～子どもの学びを支える教師力・学校力の強化～

校長通信第51号

令和4年6月14日

創立146年・開校70周年運動会



【1年生の開会の言葉】

⇒つなぐ⇒

【6年生の開会の言葉】

6月11日（土）朝、心配された雨は降らず、どんより曇り空でしたが、運動会はしっかりできそうだと感じました。よかった、子どもたちの運動会が予定どおりできそうだったのです。その裏返し的心情としては、私も教育者の端くれですので、予定どおりできることは先生たちがどれだけホッとしているかが分かることもあり、よかったと思いました。

さて、今年の運動会は例年よりも風味を付け、創立146年・開校70周年という冠があります。先生方が子どもたちに意識をさせる指導を充実させてくれたため、「70」という数字をよく考えてくれた子どもたちだと感じました。この気持ちを、過去を振り帰りつつ未来へとつないでいきたいものです。

また、コロナ禍における運動会は、昨年度と変わりありませんが、各学年種目を一つずつ増やし、保護者の参観についても増やし、ソーシャルディスタンスの確保ができるならば、参観時間も保護者に任せることとしました。再入場もOKです。これも先生方のアイデアを生かし、活用させていただいたものでした。そして、マスク対策。熱中症防止に重点を絞り、演目中は子どもも指導者もマスクを外しました。気分が悪くなる子ども、大人が出なくて安心しました。

さらに、PTA会長を始め、保護者の皆さんが受け付けや門番をやっていただきました。誠に感謝でございます。まだまだ児童の運動会係り活動については完全に元に戻していないので、教職員が担っています。その分手薄になる仕事について、こうして支えていただき、子どもの指導に注力できることから、感謝、感謝でした。

実際の運動会の男女混合での走りは今年度からでした。走力でレースを決めていくジェンダーフリーの視点が入っていました。今後はこの考え方を続けていくとよいと思います。表現運動では、それぞれの学年が「70」の字を表現運動で表しました。団体競技では、勝ち・負けがはっきり分かっているですね。個人と団体のバランスが少しずつ戻ってきた運動会でした。

個別の対応としては、悩みや課題のある子が最後までやり切ったり転んでしまった子が最後までやり切ったりする際、子どもや保護者から自主的な拍手が起こりました。転んでしまった子が、その時は涙を流していましたが、踊っている時には笑顔。運動会っていいなと思いました。

最後は、校歌斉唱。歌をとおして、学校愛を育てたいと思いました。この運動会の体験を、経験につなげ、今後の指導の充実を図ってまいりたいと考えます。

進取の素 理科什の掟 2 靴のかかとを踏んではなりません